◉東園侍從

畏き御思召を以て派遣あらせられたる侍從子爵東園基愛氏は二名の隨行員と共に昨紙電報欄内に掲載の如く昨日午前八時二十五分着の下り直行列車にて來縣せらるゝ筈の處別項直行列車遲着の爲め全日午後五時五十五分を以て着盛せられたるに付服部縣知事恩田用瀨兩技師猪瀨縣屬の諸氏は停車場迄出迎へ而して侍從には六日町萬與方に投宿せらる尚ほ全侍從には本日の上り一番列車にて膽澤郡水澤町迄趣かれ全所より下車全日は氣仙郡大又に一泊せられ翌廿二日は世田米を經て高田町に一泊夫れより被害地各沿海を巡視せられ了りて青森縣八戸町より當市を經て宮城縣の各被害地を巡視せらるゝ由なるが右に付き盛岡警察署長川口警部被害地まで先導として隨行被害地よりは目下出張中なる高等官にて案内せらるゝ筈なりと承はる

◉本年の簡閲點呼　第二師團管下本年簡閲點呼は來る七月十日より施行せらるゝ故盛岡聯隊區にても準備中なるも執行士官の人名及び執行區域は未だ判明せざる由

◉昨日の下り直行列車延着　昨日の下り直行列車は福島縣松川停車場附近に於て機關破損の爲め遲延を來たし全午後五時五十分に着したり

◉美擧　市内八幡町片原に住む長澤春之助なる人は此度の大海嘯に關する電報は勿論本紙に掲載せし重なる記事を拔書して毎日自宅前へ張出すを以て宅前は毎日市をなす如くありと云ふ誠に美擧と云ふべし

◉陸軍獸醫學校生徒募集に就て　今般陸軍獸醫學校にて生徒募集中に付志願者は本月八日まで願書差出すべき旨なりしは陸軍省告示第十號を以て其期日を延ばし來七月三十一日までに出願すべき旨定められたるに就ても志願者は右期日を誤らず願書差出すべく其提出方は是まで地方廳より師團司令部へ宛て書類を送附する向も少なからざるため時日を其間に費やし爲めに出願期日を經過するもの有之趣なりしが直接師團獸醫部（第二師管は第二師團獸醫部）へ送致すべき制規なれば當局者は其邊に注意し志願者の失望することなき樣取計はれたきものなり又試驗科目中外國語とあるは英語獨語又は佛語の内志願者の望に任して之を科するものなれば外國語受驗を希望せざるものも陸軍獸醫學校生徒を志願するを得べし尚今回の延期に就て身體檢査の期日は來る八月二十日より學科檢査の期日は同廿五日より開始さるゝ由なり

◉臨時發刊

明廿二日は月曜日なれども臨時發刊す

◉百木技手の負傷　本縣技手百木雄三氏は今回の凶變に就き宮古方面へ出張を命ぜられ再昨日當市出發せし其の途中東閉伊郡腹帶村附近に於て全氏の乘りし車は誤りて轉覆し全氏は車夫と共に重傷を負ひ車夫は生命も覺束なき程なりとぞ

◉理髮床の衛生　理髮所が公衆衛生上に至大の關係あることは今更云ふ迄もなき事なるが其實況を精察し來るに及では殆ど戰慄すべき者あり彼等の多くは人知らぬ間に小膿胞瘡毛髮脫落毛虱梅毒等恐る可き病の好傳染所たるの姿にして其表面上の體裁にては華美を競ふの傾向とあれ其元來衛生上何等の思想もなき該仲間の多數を占め居る事とて刷毛剃刀櫛鋏等を清潔にして良質の改良を施す等の事は到底望むべからざるなりされど望むべからずとて空しく著大の弊害を甘受するは識者の恥づる所殊に追々暑氣に向ひ猶ほ更ら恐るべき時節柄となりされば此際衛生會等にては大奮發を以て一の組合法の如きものを案出し其筋に建議して速かに舊來の弊風を一掃せられんことを望む事態甚だ小に似て其結果や甚だ大なるものあり識者の一考を煩さんとすと或人より投書ありし因に記す余は曾に諸器具の清淨法のみを以て滿足する能はず進んで彼の職人小僧等に大改良を望みたしと云ふ理由は彼等にして肺病其他傳染質の病を有し居る者あらんには客に接近するの際器具等よりは一層恐ろしき害を傳ふべき懸念あるべし斯くては自然に客人の嫌惡を招き店の衰運を來すの基なれば親方たる者は職人乃腕のみならず其體質をも吟味し肺病腋臭口臭疥癬等の有無を正して貰ひたきものなりと潔癖仕乃けたり小言斯くの如し

◉各自努めて其の本分を盡せ　今回未曾有の大兇變大慘害に就ては洩れ承はる處に依れば畏れ多くも去る十六日正午此の凶變の報の畏きあたりに達するや　天皇陛下には痛く侍從試補男爵澤宣元氏を中央氣象臺に差し遣はされ被害の模樣を聞き質さしめ痛く宸襟を惱まし給ふの餘り畏き御思召を以て東園侍從を御差し遣はし相成り別項掲載の如く全侍從には昨日來盛相成りたる次第にて罹災地着民は不幸の中にも此の雨露の恩澤に咽ぶあるべし左れば此の場合吾縣治當局者たるものも敢て姑息躊躇の事なく非常の精神を以て全力を傾注して此の急に應ずるの責任を完うせざるべからざるは今更ら敢て喋々を要せざる迄もなし扨て此の場合吾縣撰出の各代議士は還般問題に就ては果して如何なる成竹ある歟吾人未だ其の消息を詳かにせざれども亦必らず晏然として傍觀すべきものにあらざるべく特に彼等は此度の凶變一時の應急方法は云ふ迄もなく之れが永遠の善後策としては議會に對する運動方策も今より確定し置かねばなるまじ就ては先づ差し當り被害地を跋渉して實際の調査に從事せざるべからざるは是れ亦一目炳焉の理義に屬するものにして其の責任たる決して少々にあらず單に撰擧區民に慰問狀を發するぐらゐのみにては何の面目か天下に對せん滿腔の熱血を澆ぎて盛んに還般の事に鞠躬盡力せよ今日の事たる一點遺憾あることを許さず奮つて起てよ豈左顧右眄の秋ならんや國會議員已に然り彼れ縣會議員亦然り彼等の責務たる必ずしも成規の召集に應じて議事堂内に喋々喃々若くは沈々默々するのみにて其の能事決して了れるものと云ふべきにあらず借問す彼等は今回の凶變に如何に處せんとする歟其の筋の召集に接するにあらざれば吾等は別に差し當り爲すべきこともなしとする歟召集以外議事堂以外にありては何事をも彼等の意趣を纏め一團となつて働くべき必要なしとするかなしとすればソレ迄なれども差し當り被害地實地調査まで善後策の材料を得るなり但さは救恤扶助其他の處分に就て其の一部分を擔任して剩下の急務を完うするあり其の盡すべきの方法手段は幾多もあるべしと思はる非常の際には非常の手段に出でざるべからず斯くの如きの前古未曾有の一大慘害に際し區々として杓子定木故套を守るべきにあらず縣内の大事は縣民全體の力を以て之に當らざるべからず全體の力は一致より生ず一箭衆箭の理り今ぞ最も玩味すべきときなり多少の資望あり位置あるものは此の場合努めて相共にその本分を盡すべきなり

◉東北地方の不幸　征淸の役、目出度我國の大勝利に歸して局を結びたる以來は世間の氣大に振起し事業乃擴張、會社の增資續々起り世は繁昌の春を迎へたれども戰爭中軍費金の散じたる處は主に關西地方に在り人馬の往來、旅宿の繁昌戰爭の爲め潤ひたるは東京以西にして東北地方は其恩澤に與かるを得ず隨て今日世間の繁昌も主として東京以西に在りて東北地方の人民は空しく之を羨み起業の計畫も事業の繁榮も此地方には稀れに見るのみなりし同じ日本國中にて在り乍ら均しく戰勝の餘澤に霑ふ能はざる是れさへ氣の毒千萬なるに搗て加へて今度大海嘯の變災、東北乃罹災地方特に憐むに堪へざるものありと時事は記せり

◉到底比較の沙汰にあらず　今回の大海嘯の慘害は前代未聞の大凶變にして之れを東西古今の史上に照らすも多く其の比を見ずとは吾人が已に喝破せし處なり事情に迂なるの輩は深く實相をも極めずして徃年の濃尾震災に比較したらば何うだらふなど、タワイのなき事を云ふものあり比較どころか先づ以下の證據立つる處の一班を以て我縣慘害の非常なるに驚け扨て彼の震災の中心點にして其の慘害の最も甚きと稱せられたる岐阜縣に就て調べて見ると彼の縣全管内の人口は九十一万六千三百三十八人にして此の中被害地方の人口は七十三万千〇五十八人此の中實際死亡しゝは四千九百〇一人にして即ち千人に就ては六人七分の割合なりとす今之れを吾が縣被害地六郡の人口總數九万九千八百五十三にして其の死亡者は實に二万一千八百十六人（右は一昨日の午后六時迄の調査にして尚ほ精査の上は無論幾何乃增員を見るべし）即ち千人に對する二百十八人四分の結果に照らし來らば其の懸隔の甚しき到底全日の談にあらず比較の沙汰にあらず此乃一例以て他の全体を推すに足る吾人が古今東西史上多く其の例を見ずと斷言するもの固より誣ならざるなり嗚呼世界の志士仁人否苟くも横目竪眉の人類たらんものは此の悲絕慘絕の吾が罹災民を如何にして慰藉せんとするか

◉奥州の海吹は伊豆にて知る　去十五日夜の奥州の大海吹ば被害區域の廣大なりしと先づ世人の驚駭する所にして東京に二十餘回の地震ありしも此海吹と關係ありしは疑ふべくもあらざるが十六日の黎明ころのことなりし靈岸島より伊豆へ通ふ通快丸が伊豆賀茂郡稲取村を發して東京に向はんとする折柄海上最穩かなるに忽然として大濤の波寄せ來り平生絕えて水のつきたることなき海岸を洗ひ船客の置きたる荷物不意に浸されたれば人々稀有のことに思ひし所に名ある船乘業鈴木勝平といふ者知人を送り來りて此体を見此のヨタは只事ならず何れにか大地震大海吹ありしにあらざれば後に大颶吹くべしと云へりヨタの去來せし時間は四時頃より七時頃までありしが通快丸の航海は無事にて風は起らず一昨日曉靈岸島に着するに及び果して奥州大海吹の餘波なりしを知り得る由京報に見ゆ

◉大海嘯の原因（承前）

◎震源地は何處なるか　扨て今回の海嘯を地震の結果とせば其震源は何れの處にあるぞ事實の示す所に依れば其當りは大凡付け難きに非らず即ちタスカローラの深海こそ其震源に相違無し

◎タスカローラの深海　古傳説の如く地震は大鯰の動く結果とせば其大鯰の棲處はタスカローラの深海なり此深海は英船タスカローラ號が測量して發見したる結果として斯る名前を付せられたる次第なるが位置は北太平洋の日本陸地に併行せる部分に在りて日本陸地を距ること最も近き處は僅かに三四十里に過ぎず其源は四千メートル（一万三千二百尺）にして加之斷岸絕壁の如く其部分だけ急に深く成り居る事にして恰も太平洋中に東西幾十里、南北幾十里に綿亘せる大なる切竪の穴あるが如し此海の底とも見れば普通の太平洋の底は恰も富士山とも殆んど一千尺も高き譯にして今日迄の處にては世界第一の深海と稱せらるる此の深海の四方は屏風の如く絕壁を以て圍まるゝこと故地滑り甚だ多きは數の免れざる所にして其地滑りの度毎に日本及び其近海は多少の地震を感せざるを得ず從來日本に地震多きは實に此鯰の棲處に密接なれば而して今回の地震も亦た其震源は此深海の方面に在り

◎震源推斷の證據　去十七日迄に中央氣象臺に達したる報告に依れば東京に最も近き處にて津浪のありしは福島縣標葉郡富岡附近にして東京を距ること最も遠き所にて津浪のありしは北海道の東南端襟裳岬附近の地方なり此兩極點は津浪と云ふの津浪にはあらざれども兎に角津浪と見るべき現象の有りしには相違無ければ假りに之を兩端とし而して津浪の最も激烈なりし本縣の釜石附近中心として其形勢を案ずるに大約左の如し

○襟裳岬

○釜石

○富岡

○震源（タスカローラ海の邊）

右の如く震源に最も近きは釜石にして其被害も多く襟裳と富岡は兩端にして其被害最も少く而して富岡より震源に至るも襟裳岬に至るも其距離は大凡相匹敵し居る所より見れば震源は釜石と遙かに相對するタスカローラの深海見當に在りて之より諸所へ震動の影響を波及し兩端に至りて漸く和らぎたるを知るに足れり此推算は固より正確なるを保するを得ざるも又た果して地震源地盤の陷沒に因るや若くは隆起せしに因るか判し易からずと雖も此證據物に依りて之を推せば當らずと雖も遠からざる判斷なりとす　（完）

◉大海嘯大慘害義捐人名

金貳拾錢　東京神田區紺屋町廿八番地出張店　西村音吉
金三圓　盛岡市八幡町車屋共愛連
大星重兵衞
松田孫平
三浦重藏
阿部林次郎
奧村萬藏
大橋善次郎
柳田泰吉
大坪震太郎
大酒市太郎
大橋德太郎
川村春松
金澤總二郎
金壹圓　盛岡市鷹匠小路　桐原興顯
金五拾錢　全內加賀野　獅子內哲三
金拾錢　全鉈屋町　中島重太郎
金五錢　全　中島論太郎
金五拾錢　西磐井郡中里町　千葉廣治
金壹圓　南巖手郡廚川村　藤田源藏
金貳圓　盛岡市紺屋町　吉田德太郎
金壹圓　全　菅原次郎
金貳拾錢　淺岸村新庄　藤原仁太郎
金貳拾錢　盛岡市大澤川原　浦上景宜
金貳拾五錢　全紺屋町　石龜岩次郎
金五圓拾錢　全　北上會社員
內
金壹圓　村井庄七
金壹圓　船越經也
金貳拾錢　村上銑五郎
金貳拾錢　古館金兵衞
金貳拾錢　宮川善三郎
金貳拾錢　米內健次郎
金壹圓　菅野忠之助
金五拾錢　齋藤末吉
金貳拾錢　佐藤德太郎
金貳拾錢　藤村三藏
金貳拾錢　植村太郎
金貳拾錢　奧村松太郎
盛岡市紺屋町　潮川德五郎
金壹圓　全六日町海產物問屋　齋藤秀治
金五圓　全馬町荷捌人　赤澤寅治
金貳拾錢　全穀町同帳附　目時豐助
金貳拾錢　全四ツ家町　瀧澤啓次郎
金貳拾錢　全馬町荷捌人　藤島平八
金五拾錢　全鉈屋町海產物問屋　森田平次郎
金五圓　全肴町全帳附　山口金治
金五拾錢　全神子田町全帳附　前澤喜代治
金五拾錢　盛岡市　魚市塲管理者
金拾圓　秋田縣秋田市大町　竹田圓治
金五拾錢　長野縣東筑摩郡島立村　横內源作
金五圓　大分縣北海部郡上南津留村
金貳圓　西和賀郡新町　麻生音波
金參拾錢　盛岡市六日町　田口現吉
金壹圓　全加賀野新小路　村田專太郎
金壹圓　全呉服町　吉田斗寬
金壹圓　全八幡町　多田國次郎
金五拾錢　全紺屋町　大久保小つね
金五拾錢　砂子田重兵衞
金拾壹圓四錢　巖手縣監獄署前南製軸工塲內
內
金壹圓五拾錢　森口卯吉
金壹圓貳拾錢　齋藤松之助
金五拾錢　藤原長九郎
金五拾錢　中村富太郎
金五拾錢　松尾長次郎
金四拾錢　齋藤市太郎
金貳拾錢　餘目榮吉
金貳拾錢　乙部關治
金貳拾錢　姉帶市太郎
金拾錢　千葉周吉
金拾錢　平野米次郎
金拾錢　藤原久吉
金拾錢　武山仁太郎
金拾錢　井上初太郎
金貳拾錢　森口いと
金貳拾錢　千葉まか
金拾錢　工藤とわ
金拾錢　四戸あみ
金拾錢　室岡そよ
金拾錢　工藤さき
金拾錢　高橋きく
金五錢　小森かよ
金五錢　金平わか
金參錢　谷藤きね
金參錢　沼田ちか
金參錢　菅原やい
金參錢　高橋とく
田邊金三郎
多田耕次郎
千葉勘次郎
金五拾錢　阿部則明
金五拾錢　川越德次
金五拾錢　佐々木文太郎
金貳錢　加藤金次郎
金貳拾錢　谷藤岩藏
金貳拾錢　吉田申松
金拾貳錢　谷松鶴松
金拾錢　森口源藏
金拾錢　齋藤寅吉
金拾錢　吉田甚太郎
金拾錢　笹森仁助
金拾錢　佐藤寶次
金五錢　佐々木千助
金貳拾錢　竹原とめ
金拾錢　井上きん
金拾錢　古澤まき
金拾錢　小松みき
金拾錢　岩井花いし
金拾錢　齋藤ふさ
金五錢　櫻庭つへ
金五錢　古澤ぜみ
金參錢　宮崎とめ
金參錢　熊谷たき
金參錢　川口つる
金參錢　櫻庭やま
金參錢　高橋みよ
金五圓　盛岡市鉈屋町　荒川勸三郎
金拾錢　全本町　上野寶次郎
金五拾錢　南巖手郡廚川村　下田榮夫
金參拾錢　全　下田ちゑ
小以金六拾八圓七拾四錢
追計金貳百六拾貳圓九錢

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。